

## トイレカー（トイレトレーラー）の整備について

### 四 国 部 会 提 出

近年、全国各地で地震や風水害等による大規模災害が発生しており、被災した地域の住民は避難所での生活を長期間送られるケースが報告されている。

今年の1月1日には能登半島地震が発生し、家屋の倒壊や大規模火災、電気、ガス、上下水道等の生活に欠かせないライフラインが寸断され、被災地の住民は一瞬で多くを失い、ライフラインの復旧や仮設住宅が整備されるまでの間は、避難所等の慣れない環境で生活を送られている。

なかでも上下水道が寸断されている状況では、水洗トイレやお風呂の使用ができないことから、衛生面や体調面等に悪影響を及ぼすことが想定される。そのためにも避難所における生活環境を改善するためトイレカー（トイレトレーラー）の整備を進めていく必要性がある。

このトイレカー（トイレトレーラー）が配備されることにより地震等の大規模災害が発生した場合、県内各避難所に速やかに設置が可能となることで衛生面や避難生活の向上等が図られ、避難者の身体や心のケアに繋がる。

しかしながら、1台あたりの調達コストが高く災害時には複数台必要であること、また普段使いにおいては災害訓練やイベントなどに限定的であることなどの理由から市町村独自で整備することは困難である。

こうしたことから全国を網羅する広域的に集約したトイレカー（トイレトレーラー）を配備すれば、災害が発生した場合には被災地へ各地域から応援集合させ、利活用すれば各自治体単独での整備より効率的になる。

については国においては、全国を網羅する広域的に集約したトイレカー（トイレトレーラー）の整備を要望する。